

平成19年度 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会
御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金事業提案説明会・審査会 議事録

日 時：平成19年6月17日（土）10：00～13：00

場 所：御殿場市役所玉穂支所 第3・4会議室

参加委員：委員14名（前田・佐々木・福島・渡邊・芹澤・藤村・近藤・湯山・鈴木・
岩田・青木・山本・勝又・杉山） 学識経験者1名（牛山）
合計15名

事務局：鈴木・内田・勝又・岩本（地域振興課）
山本（㈱ダイナックス都市環境研究所）

1 行政提案事業説明

・市民活動見本市の開催

「2007元気わくわく ごてんばフェスタ」

事業計画書に基づき、NPO法人御殿場市体育協会から事業説明が行われた。
質疑応答については、以下のとおり。

Q：昨年度と同じ予算では、体育協会の負担が増えるのではないか。

A：テントの使用について、テントを手配できる団体は、持込をお願いします。有料のテントを利用する場合は、負担金をお願いします。音響設備についても、通常より安い価格で手配をする。看板等も手づくりで対応する。

Q：ワンコイン販売の収益で、事業を大きくできないか。

A：販売については、各団体の責任で、採算が取れるように（赤字が出ないように）お願いしている。売上は、本部には入らないし、赤字が出た場合に本部から補填はない。



会長あいさつ



NPO法人御殿場市体育協会

2 御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金事業提案及び質疑応答

事業計画書に基づき、4団体より事業説明が行われた。説明後の質疑応答は以下のとおり。

「モンゴル民話と馬頭琴の世界に親しむ！」(御殿場地域読み聞かせボランティアの会)

Q：モンゴルの馬頭琴をテーマにした理由はなにか。

A：モンゴルに伝わる民話を日本人が絵本にまとめ、国語の教科書にも採用されている。英語・中国語・ハングルに翻訳され、世界中で親しまれている名作である。

内容としては、人が生きることについて訴えるものである。絵本のなかで、モンゴルの自然に触れ、モンゴルの自然から生まれた馬頭琴の実物に触れることで、民話とぬくもりのある楽器とめぐり合う機会としたい。

Q：絵本と楽器のコラボレーションはたいへんよい企画だと思う。図書館と協働して、活字に親んでもらうような展開をお願いしたい。

A：12月に向けて、図書館まつり等と連携して、推進していきたい。

「みんなで考えよう 食の安全、安心を！」NPO法人エコハウス御殿場

Q：食の安全安心や地産地消に感心をもってもらうことは有意義なことだと思う。

市内で地産している人が、どの程度安全な農業を実施しているか農業に関わる人にも働きかけがあったらさらによい企画だと思う。

A：継続して取り組んでいきたい。



御殿場地域読み聞かせ
ボランティアの会



NPO法人エコハウス御殿場

「御殿場線まつり・秋」御殿場線を育てる会

Q：JRやトヨタ（F1の主催者）は、協力団体に入っていないのか。企業とどんな協働ができるか考えはあるか。

A：JRには御殿場線の輸送力増強に前向きに取り組んでもらえるように働きかけてきた。JRも徐々に変わってきたので、さらに変えていきたい。

トヨタについては、グッズの提供を受けている。今回もスピードウェイの協力を得られる見込みである。

「富士賛同六の実態調査と資料展示会・インストラクターの養成事業」NPO法人富士賛会議

Q：NPO法人として収益をあげる活動をしているか。会費収入だけか。

A：収益事業はない。会費収入と企業の支援がある。

Q：富士山の価値が市民・行政に広まっていない。世界文化遺産に登録する運動がある中で、文化遺産として残せるように働きかけをする必要があるのではないか。

A：富士山憲章を持ち、富士山のまち御殿場を掲げているのに、行政の側から手を組もうとする気持ちがなく、動いてもらえない経過がある。

Q：協働を考えた場合、行政が事業化したくなるような企画でなければ、協働できないのではないか。

A：行政にやる気があれば、事業化できる。演習場の問題が難しいのは、理解しているので、すぐに実現できるとは思っていない。今回、発表の場を得られたことは良かった。



御殿場線を育てる会



NPO法人富士賛会議

3 講評（協議会委員：牛山教授）

日本でも民間が公共の活動をする方向へ進みつつある。この前提としては、市民社会が成熟していることが必要となる。行政ができないことを市民が担っていくことが始まっている。

行政の事業として実施すると市内全体のことを考える必要があり、1箇所のみ実施するというのは難しい。しかし、神山有志の会の事業のような場合、市民が協働で実施する場合、1箇所のみでも事業実施が可能である。

協働事業と従来の委託や補助金事業との区別が難しい。協働自体が熟成されていない中で、どこでも試行錯誤している状況があるが、行政も市民も戸惑っている。みんなで検討することで解決さ



れていく問題だと思う。

昨年度に比べて、申請件数が少ない。補助金事業を募集しても提案が少ないと、行政の中ではニーズがないと判断し縮小する可能性がある。市民が様々な課題について行政以上に考えていることを示し、たくさんの応募があれば行政もニーズがあると判断し予算も付きやすくなる。

成熟した市民社会にしていくために、市民が頑張っていることを示す必要がある。他の市民活動団体へも協働事業のPRをしてもらいたい。市民活動団体の活発な活動をお願いしたい。

協働事業は、各地で実施されているが、審査の方法等でまだまだ課題がある。始まったばかりの施策であり、発展途上だが、結果としてよい行政につながっていただきたいと思います。

4 審査（進行：㈱ダイナックス山本）

募集の件数に満たないので、採用するかどうかの審査をお願いしたい。

- ・はじめの一步事業 書類審査で決定。
- ・市民提案 発表と書類をあわせて審査する。
- ・行政提案については、委員から意見をいただきたい。

(1)はじめの一步事業

事務局から、はじめの一步事業の紹介

「防災を市民の手ではじめよう！」(災害ボランティアコーディネーター御殿場)

委員A：継続期間が書いてあるが、どのようになっているか。

事務局：市民提案部門に移って引き続き継続して活動したいという希望がある。

委員B：従来の訓練は実際の発災時に役に立つのか疑問があったが、この事業は実践型の協働として評価できると思う。

委員C：各区の自主防災会組織との連携はどのように考えているのか。

事務局：災害発生時は、災害ボランティア本部が立ち上がる。社会福祉協議会と協力して、本部の運営を助けたいと考えているようだ。自主防との連携も必要かもしれない。

山本：災害発生時は、被災地外から来るボランティアを受け入れる必要がある。大量に応援に来るボランティアの活動と地域のニーズを結びつけるコーディネーターが必要とされている。

委員A：自主防災会長は1年で交代してしまう。防災のプロフェッショナルがはじめの一步事業で行政との組織化をしていただくのはたいへん良いことである。

「手づくり介護服教室」(北駿難病患者家族会)

委員B：難病患者への理解が少ない中で、会の活動を理解してもらう必要もあると思う。この事業を実施していくことで広めていくのではないかと思うが、外への

アピールが少ないのではないか。

事務局：以前からある団体だが、今まで内々の講演会等を開催することはあった。

これから、外へ向けて活動することになると思う。

委員 A：今後も活動していくことが計画にあるので、この事業を実施することによって市民の理解が進むとよい。

委員 D：はじめの一步事業なので、期待を込めてあまり内容の充実を求めすぎるのはどうかと思う。事業展開できるような行政の支援を提案していく方がいいと思う。手づくり介護服教室のような小さな事業でも、実施していることを知れば、参加してみようとか、不要になったワイシャツをエコハウスで集めることで協力ができる。

委員 E：はじめの一步事業は、書類審査なので要件が整っていれば採用でよいのではないか。

山本：協議会は協働を進めていく役割があるので、行政との橋渡しをするとか、エコハウスのような協力できそうな団体とつなげることも必要ではないか。

採用するということによろしいか。

一同：異議なし

(2)市民提案事業

山本：1事業ずつ採用するかどうか確認をしていきたい。

委員 A：予算の枠内だからすべて採用とは限らない。採用した事業に問題点がでると困るので、1つ1つの提案について、委員の意見を聞きたい。

委員 F：それぞれの事業について、行政の意見はどうか。

山本：申請にあたっては、行政の同意はもらっていないことになっている。活動の中身についてまず評価したい。

「モンゴル民話と馬頭琴の世界に親しむ！」(御殿場地域読み聞かせボランティアの会)

委員 G：子どもたちに生の馬頭琴を聞かせることはたいへんいいことだと思う。事業のPRのためにも期間が十分あってよい企画だと思う。大勢に見てもらえるように本を画面に映してやったほうが良い。

委員 B：講師料が高いのが気にかかる。絵本に関わる部分が少なく、馬頭琴がメインなのか、読み聞かせが中心なのかかわかりにくい。

委員 A：市民会館を使って、読み聞かせにあわせて、生演奏を聞かせるということは、子育て支援につながる素晴らしい事業だと思う。

委員 G：情緒的なものに関心が高まっている。図書館に関わる団体が協力してPRしていくことが市民の協働としてもいいことだと思う。

子どもの教育についての観点から、ニーズが高いので採用とする。

「みんなで考えよう 食の安全、安心を！」(NPO法人エコハウス御殿場)

委員A：エコハウスは、毎年補助金事業で視察研修を実施しているのか。

事務局：市民公益活動促進事業補助金で、視察研修を実施していた。

委員H：食の安全については重要なことなので、継続して広めてもらえば市民に有益な事業ではないかと思う。

委員I：視察だけに終わらないように、事前事後の取り組みをして研修の成果を深めてほしい。

委員J：視察だが、御殿場市の実態を把握したうえで参加してもらえば、研修効果が高まると思う。今年度だけでは広がりがないと思う。

今年度だけでなく、研修の成果が広がるような活動を展開する。という条件で採用とする。

「御殿場線まつり・秋」(御殿場線を育てる会)

委員H：御殿場の魅力発信としてはいいがイベントの補助金で終わってしまう可能性があり継続についてはどうかと思う。御殿場線利用者及び運行本数の増加と御殿場線まつりの関わりがわかりにくい。

委員J：まつり自体はよいが、F1の時期でないほうがよい。御殿場の魅力発信はよいが、混乱するのではないか。

委員A：ドイツワールドカップでは、国をあげてそれぞれの町で市民が盛り上げてくれた。そういう意味でまちおこしの情報発信をする良い機会ではないか。

委員K：F1開催時には、限られた交通手段で来場するので、いいアピールの機会になると思う。

委員E：昨年ダメだった理由は、何か。

事務局：列車本数の増発が目的だが、イベントの目的の内容は地域振興だったため目的と手段に若干のずれがあったため不採用となった。

委員F：F1との関係で、市として来御者を歓迎しなければならない中で、市民自らが歓迎事業をするのは良いことである。

採用とする。

「富士山洞穴の実態調査と資料展示会・インストラクターの養成事業」(NPO法人富士山会議)

委員H：洞穴の調査は、国等で実施していないのか。

委員A：演習場使用協定の関係で、採用してよいか疑問がある。調査対象がほとんど演習場内ということで、調査のために演習場に入れるか疑問である。

委員E：事業提案だけで行政に調整をしてほしいということか。

委員 K：宝永噴火 300 年記念事業との関係はあるのか。

委員 F：この事業は関係ない。富士山の洞穴については文化財のしおりにあるのではないか。

事務局：事前に聞いた関係する部署の意見は次のとおりである。環境保全という面では、演習場内ということで実現性に疑問がある。専門的な資料もないので資料提供できない。駒門風穴・お胎内洞穴のように公開できる場所でもないので、協働できないのではないかという意見がある。

文化財の面からも、指定されている洞穴のみということになる。市内は駒門風穴・お胎内洞穴の 2 箇所のみ。学術的な価値については不明ということ。

委員 F：調査はしていないのか。

事務局：調査はしていないとのことである。

委員 C：富士山洞穴の調査ということでは、御殿場市だけの問題ではない。

委員 A：富士学校との調整ができるかどうか、事業の実現性のカギになる。

委員 L：小山町・裾野市の部分があるが協議会として決定してよいか疑問である。

山本：溶岩洞穴の全貌がわかっていないので研究については意義があると思われるが、演習場の立ち入りや御殿場市以外での活動など行政の対応が難しく実現性に疑問があるということで総括してよろしいか。

委員 E：この事業の中心をなす現地調査が困難であるので協議会としては、現段階では不採用と判断するしかない。

委員 J：事業の実現に向けて、関係部署に働きかけてもらうことを考えてもらうように方向付けしていくほうがよい。

委員 L：インストラクターも洞穴に入れなければ役に立たない。

山本：協働事業としての実施が難しいので、不採用ということではよろしいか。

事業実施の見通しができたら採用したい事業ではあるが、この事業の中心をなす現地調査の実施が困難であるので、不採用と判断するしかない。

行政提案部門

山本：主管課としての意見はどうか。

事務局：昨年の反省を活かして事業実施をしたい。

委員 B：市の職員の関わりが薄いという反省は活かされるのか。

事務局：地域振興課だけでなく、農林課の参加も予定されている。

委員 A：NPO 法人連絡会を実施しているが、今後は事業実施をしながら連携を深めていくことが必要である。見本市の位置付けをどのようにしていくか NPO にとっては重要なことである。

審査の結果、はじめの一步事業に 2 件、市民提案に 3 件の事業を採用することに決定。

事務局：では、本日の公開説明会・審査会はこれにて終了する。